

令和6年第14回（定例）高砂市教育委員会 会議録

令和6年9月26日午後5時高砂市教育委員会を高砂市役所南庁舎2階会議室2において開会

出席者

教育長	玉野 有彦
委員	吉田 美香
委員	山名 克典
委員	神尾 信作
委員	吉屋 章

出席事務局職員

教育部長	木田 匠	教育推進室長	福本 典子
学校教育室長	平山 健二	学校教育室参事	矢野 仁之
教育総務課長	石原 里美	生涯学習課長	四方 亮輔
学校教育課長	福永 慎也	青少年センター所長	長谷川竜平
教育総務課係長	長谷川 宏輔		

本日の会議に付した事件

議案

- 1 高砂市社会教育委員の委嘱について

協議事項

- 1 新たな学校づくりアンケート調査内容について

報告事項

- 1 令和6年度全国学力・学習状況調査結果報告について
- 2 高砂市教育委員会事業共催・後援について

その他

- 1 10月行事予定について
- 2 学校内での車の事故について

議 事 議案 1 高砂市社会教育委員の委嘱について

○教育長 議案1 高砂市社会教育委員の委嘱について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 9月1日付で高砂市議会推薦の入江啓太委員から辞職の届出があり、後任の推薦を高砂市議会にお願いしましたところ、令和6年9月17日付で春増勝利委員の推薦報告がありました。

2ページの社会教育委員に関する条例の第4条の2のとおり、補欠委員の任期は、前任者の残任期間で、令和6年9月11日から令和8年3月31日までが残任期間となっております。

○教育長 事務局より説明が終わりました。御意見、御質問ございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○教育長 質問、御意見がないようですので、原案どおり可決することといたしますが、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 原案可決いたします。

議 事 協議事項 1 新たな学校づくりアンケート調査内容について

○教育長 協議事項1 新たな学校づくりアンケート調査内容について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 前回の教育委員会終了後、御意見を頂戴し、その後、庁内委員会、庁内委員会の幹事会などでも御意見を頂戴し、修正、改善を重ねているところです。また、今月19日に開催されました第1回新たな学校づくり推進審議会におきましても御意見がないか依頼をしているところです。

本日、現時点での案を御覧いただきまして、審議会の御意見が今週末までに来る予定ですので、その御意見を踏まえて、修正を加えまして、内容を固めていき、次回の教育委員会で、協議事項としてお諮りしたいと考えております。

別冊資料の表紙の裏側に目次があり、その後小学校の低学年、高学年、中学生、児童生徒の保護者用、未就学児の保護者、教職員、市民と続き、それぞれ対象に合わせまして表現や質問内容を考えています。

今回は、前回いただきました御意見に対し、どのように対応したのかということを中心に御説明します。

1ページは、低学年用のアンケートです。アンケートに入る前の最初の案内文で、真ん中に、「各先生方へ」という項目で、先生方に児童へ御説明いただきたい

内容を掲載しております。小学校低学年以外も、高学年、中学生用、それぞれ先生方に御説明いただきたい項目を掲載しております。

4ページ低学年用のアンケート、しつもん4は、クラスの人数について40人以上のクラスもあるのではないかと御指摘をいただき、回答肢に「36人よりおおい」と修正させていただきました。

7ページしつもん13、8ページのしつもん14は、前回の「すきなばしょ」「きらいなばしょ」という表現がちょっと強いのではないかとということで、「おきにいり」、「にがて」というようなちょっと柔らかい表現に修正いたしました。

低学年は難しいので、自由記述はなくしまして、質問数もできるだけ少なくなるように努めました。ほかの対象のアンケートにつきましても、記述式、理由を自由記述にしていますが、できるだけ選択肢としております。

24ページ小学校高学年のアンケートの最終です。自由記述はできるだけなくしていますが、最後に、「その他、学校の建物について何か言いたいことがありますか」という項目を入れさせていただいています。

26ページから、中学生用のアンケートになっています。

29ページは、委員から設問に対しての説明がないと分かりづらいという御指摘をいただきましたので、中学校から資料をできるだけ入れるようにして、小中学校の校区と小学校、学校の位置が分かる地図を添付しています。

30ページは児童生徒数の推移が分かる図で、下に、令和6年5月1日現在の各学校、学年のクラス数を掲載し、その下に、適正規模・適正配置の説明文を入れています。説明文は中学生以上、大人全て掲載しています。

34ページ問13の回答肢、前回の「統廃合」から「廃」を削除し、「近くの学校と統合」という表現に変えております。

御指摘いただきました跡地活用の設問については、確かに少し時期が早いと感じ、設問からは削除しております。

42ページから、児童生徒の保護者用アンケートとなり、中学生と同様、資料等々を挟みながら設問を入れています。51ページ問16から、自分たちが小学校のとき、中学校のときの通学距離、通学時間はどうでしたかといった設問を残しております。これは必要なんですかという御指摘を頂戴し、内部で検討した結果、意図としては、自分たちの子どもだけじゃなくて、自分たちはどうだったかということ振り返っていただくことで、自分が体験したことを思い返していただいて、その上で、次の質問、最適な距離、最適な時間を回答いただきたいなということで残しています。

57ページ問30は、前回、児童や教職員のみにお聞きしたのですが、保護者の目線も大事なのではないかとということで、設問に加えております。

76ページから、教職員用のアンケートとなります。

78ページ問2は前回誤って「教師」という記載がございましたので、「校長」「教頭」「教諭」「事務職員」という形に修正しております。審議会も、今週、御意見を頂戴しますので、その意見も踏まえて修正を重ねてまいりたいと考えています。

アンケートは事業者等と調整を重ねまして次回教育委員会に諮り、10月25日から11月30日に実施する予定で、1月上旬頃調査結果をまとめ、教育委員会で報告したいと考えております。

○委員 21・22ページ問16・17で、お気に入りの場所や苦手な場所を尋ねていますが、サポートルームが入っていないですね。

○事務局 そうですね、サポートルームを入れます。

○委員 途中でやめたりしませんか。子どもは学校で先生と一緒にやるのですか。

○事務局 園長校長会でお願いして、先生方が説明の上でしていただけたらありがたいなと考えております。

○委員 アンケートの実施は2回目がありましたか。

○事務局 この1回で、全ての意見を取り終えるというイメージは持っていないくて、アンケート調査という形ですかワークショップにするかはまだ決まっていますが、この計画をつくる上で意見が必要となれば、実施はしないといけないかなと考えています。

○委員 今回は、周知していただく、そういう状態にありますよということを分かっていたことが大きな目的なので、質問、設問が多くなるのは仕方がないと理解しておりますので、これでいいと思います。

あと気になったのが、自由記述は少なくしないと、集計も後の処理も大変だと思ったので、今回随分、最後だけになっていますよね。その最後の19の表現の仕方が、中学生までは、「学校の建物について何か言いたいことがあったら教えてください」。保護者からになると。今度は、「学校（施設）についてのご意見やご提案がありましたら」とかなっていますが、「言いたいこと」、「伝えたいこと」の方がいいかと思いました。

○事務局 確かに高学年からは、「伝えたいこと」でも十分通ると思いますので、その表現は修正させていただきます。

聞く内容が、学校の建物、確かに限定的過ぎるかもわかりませんので、各年代に応じて、趣旨が理解できる範囲内で、言い回しが変わられるようであれば工夫したいと思います。

先ほど、委員に御指摘いただきました、「わからない」の付け加えについても、各年代に応じて、もう1回検討したいと思います。

○委員 目的の大きなものの1つが、将来変えていかなきゃいけないということを知ってもらうことだったんですけれども、学校でこのアンケートをされるときに、先生方には、アンケートの趣旨、目的はちゃんと書いていただいているので、これ

をお読みになって、理解してくださると思いますが、子どもたちには、「みなさんの意見を聞いて、新しい学校をつくるための参考にします」と書いてあり、「新しい学校をつくる」ということを子どもたちがどれくらい分かるのかなと思います。その子たちの年齢に合った言葉で、年齢に合った説明の仕方で、一言何か説明していただけたらありがたいなと思います。

○事務局 ありがとうございます。

○委員 これは全部ウェブの回答で紙はなしですね。

○事務局 はいウェブ回答だけです。

○委員 質問は簡単に作ってますが、分かりにくい人もいるかと思うので、記入は各学校の先生にお願いして、やってもらった方が、きちんとしたアンケート結果が得られると思います。一つ一つ、時間はかかるけれども、時間を取ってもらって、この質問は1つだけ丸よとか説明しながらアンケートを取っていった方法がいいと思います。

それと、このアンケートの結果というのは、公表する予定ですか。

○事務局 はい公表します。

○教育長 9ページしつもん17-1「あたらしい学校に、あったらいいなとおもう『もの』の1ばんめをおしえてください」。10ページ「2ばんめをおしえてください」、「3ばんめをおしえてください」というところは、1年生が回答できるかなと思いましたが。予備調査的なことはなさらないんですかね。それをやっておかないといけないんじゃないかなと思うんですけど。

○事務局 そのこともちょっと検討したのですが。

(休憩 午後5時34分)

(再開 午後5時54分)

○事務局 御指摘いただきましてありがとうございます。

回答肢につきましては、回答肢が多い分は、数を減らすなど、もう少し精査を加えまして内容を整理し、先生方に御負担がないようにすることも併せて検討していきたいと思います。

全体的なウェブ、タブレット上であることを、もう少し想像を膨らませながら、実際にどのようにしたらやりやすいかということも併せて検討を加えて、次に、よりよくなるように作業したいと思います。

○教育長 すいません、タブレット上でやるのが子どもたちの情報教育を、情報の資質、能力を高めていくためのもので、大事なことなので、それはそれでやっていこうかということの意見も休憩中に出たように思いますので、そのところは、タブレットで調査、アンケートをしてもらえるようお願いいたします。

他に御質問、御意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○教育長 協議事項1につきましては、内容を整理した上で再協議いたします。

議 事 報告事項 1 令和6年度全国学力・学習状況調査結果報告について

○教育長 報告事項1 令和6年度全国学力・学習状況調査結果報告について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 1 ページ、調査の概要 1 調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることで、令和6年4月18日木曜日に小学校が国語と算数、中学校が国語と数学を実施しました。

4 調査の集計結果は、小学校の国語の正答率は全国が67.7%に対して高砂市64%、算数は63.4%に対し、高砂市62%で、高砂市の小学校6年生の平均正答率は、全国と比較して、国語は3.7ポイント、算数は1.4ポイント下回る結果でした。

中学校は、国語の正答率が全国58.1%、高砂市57%、数学が全国52.5%、高砂市53%で、高砂市の中学3年生の平均正答率は、全国と比較して、国語で1.1ポイント下回り、数学は1.5ポイント上回るという結果です。

2、3 ページ全国学力調査結果の経年比較では、小学校の国語は直近6年間、全国より下回り、算数においては、昨年度は全国平均を上回っていましたが、今年度は下回っております。中学校の国語は、過去10年間、全国と同程度または下回り数学は、昨年度は、過去と比べると、全国との正答率の差が大きく下回っていましたが、今年度は上回っております。

4 から11ページでは、各校からの報告を基に課題と方策について検討したものを示しており、小学校の国語は、上位層の児童が少なく、中位層の児童が多く、問題に対して必要な情報を得ることができなかつたり、キーワード、問題の要点を結びつけて考えるという力が不足している傾向が見られております。

小学校の算数は、上位層の児童が少なく、下位層の児童が多く、面積の公式はしっかり覚えていても、実際にそれをうまく使いこなすことができていないことであつたり、グラフから必要な情報を読み取って、条件に沿って変えていくというようなことが課題として見られました。

中学校の国語は上位層の生徒が少なく、中位層の生徒が多くなっており、文章と図を結びつけて、その関係を捉えて回答していく課題に答えていくところが難しかったり、自分たちで問題の中から集めてきたものを整理して、それを相手に分かりやすく伝えることはできていたとなっております。自分の考えが伝わる文章になるように、表現を考えていこうというような工夫をするような問題は少し正答率が、全国と比較して低く、その問題に関しては無回答率も高かったという結果が出ております。

中学校の数学でも上位層の生徒は少なく、中位層の生徒が多いです。授業において問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察する機会は少なく、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができなかったというようなことが課題として挙がっております。

小学校、中学校ともに情報を収集して分析、そして、表現の問題にやはり課題が見られております。国語、算数、数学だけではなく、日頃から新しい学力に向けた授業改善を引き続き行っていく必要があります、加えて、基礎、基本的な問題についても取り組み、基礎学力を保障する上では大切なことであると再確認しております。

12ページからは学習状況調査で、児童生徒への質問による結果となります。

12ページは健やかな体づくりという項目では朝食を毎日食べているか、毎日同じぐらいの時刻に寝ているか、起きているかという設問です。その中で、毎日同じぐらいの時刻に起きているという設問では、中学校で肯定的な回答が全国と同様ですが、そのほかの設問は下回っており、家庭との連携を図り、家庭の教育力が不可欠であるということで分析しております。

13ページは子どもたちの豊かな心が育っていているかという指標になる説明です。「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という設問です。小学校の「将来の夢や目標を持っていますか」という設問で肯定的な回答が上回っていますが、そのほかの設問では、全国と同様か、下回っています。このような結果の中、否定的な意見をしている子どもたちをしっかりと見ていくことが大事ではないかと分析しております。

14ページは確かな学力に関わる設問で、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができているかというところです。小学校において、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを考えながら工夫して発表する機会が増えていることが分かります。この数字が、小学校に比べ、昨年同様、中学校の方が低いので、中学校の授業でも、そういう場を今後も設けていき、子どもたちの意見を言うところを増やしていくように授業改善を図っていかなければならないということが見てとれております。

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」では、小学生ではなかなか難しいとはいえ、小学生、中学生ともに、全国を下回った数字が出ているので、授業づくりを工夫し、きめ細かに指導していくことが必要ではないかと考えます。

15ページは子どもの思いの設問となります。学校に行くのが楽しいですかという設問で、中学校では全国を上回っており、「勉強は好きですか」という設問では、国語、算数、数学の全ての教科で全国を下回っています。また、「先生は、あ

なたのよいところを認めてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という設問でも、肯定的な回答が全国を下回っております。教職員が子どもたちに寄り添う時間を増やしていくことで、子どもたちとの関係性が深まり、結果的に子どもたちの学力向上にもつながっていくのではないかと考えております。

- 教育長 事務局より説明が終わりました。
質問をお伺いします。
- 委員 分析シートは、中学校は教科の先生がしていると思いますが、小学校は教科の先生がしていますか。
- 事務局 主に教科の先生がしています。
- 委員 確かに教科の専門性ということからいえばいいのですが、マンネリ化するので違う先生を取り込んでいくことも必要だと思います。
それと、この結果を教職員に伝えるときは、どういう形でされていますか。
- 事務局 各学校で分析をして、各学校で分析したものを基に高砂市で分析し、校長先生方に説明して、持ち帰っていただくという流れで、その後、リーフレットを作って、保護者とか地域の方にも示していくという流れになっています。来年度以降は、これをもっとブロックごと、校区でもできないかなと考えているところです。
- 委員 やり方を変えていかないと、3年、4年に1回のことだったら結構新鮮であります。毎年なので、ほとんど評価も固定で課題もずっと一緒ですね。
- 事務局 そうですね。
- 委員 やっぱり伝え方は、保護者にしても教師にしても、校内の研修みたいにしていかないと、簡単に終わってしまうと思います。課題や悪いことばかり出てくるけど、よかったとき、何がよかったのかも大きなポイントになったりするので、いろんな角度から、いろんな研修が必要だと思います。
- 委員 学校間の成績は、それぞれの学校は知るんですかね。
- 事務局 学校は知っています。
- 委員 各学校間は知っていて、どういう形で改善していつているのですか。学校が課題を見つけても、その課題を克服するために、やった結果を検証しないと仕方がないと思います。
- 事務局 委員がおっしゃられているようなところを教育委員会としても課題と思っています。
小学校では隣の学校とも課題は違うし、傾向も違うはずなんで、取り組む内容は変わってくると思うんです。そして、2つの学校から1つの中学校に行くわけだから、中学校ではそういう取組をしてきた子どもたちが来るんだなということ、より具体的にした方がいいのではないかと改善してしているところです。
- 委員 今、課長さんがおっしゃったことは本当にいいことだと思います。中学校はなかなかそれが、引き継がれていない学校が多いと思います。オンラインの授業の

仕方にしても、小学校と中学校で違うから、そこもやり方を、1つの学習規律として、連携していくことによって、全然違ってくると思いますので、本当に効果的な策ですし、ぜひ、小中連携をどんどん積極的に進めていただけたらいいなと思いました。

○委員　私も、小学校同士の情報共有とか、中学校区内の小学校から中学校への情報共有とかはしてくださっていると思うんですけども、何かもっと深くできたらいいと思います。保護者さんの話を聞いていると、あそこの小学校はこんなことしているのに、うちの学校は全然していないとか、小学校のときにこういう体験しているのに、中学校で全然それを広げてくれないとかいう話をよく聞くんですよ。そういうのはすごくもったいないなと思いますし、そういうところを、せっかくなら小中一貫ということでやっているのだから、つないでいただけたらありがたいです。

もう1つ、私は資料の14、15ページがすごく大事だと思います。学校は楽しいんだけど勉強が嫌いとか。嫌いというか、「勉強は好きですか」というのが少ないというのは、高砂の子が正直過ぎるのかもしれないんですけども、何か新しいことを覚えるとか、できなかったことができた喜びを伝え切れていないのかなと思います。学校が楽しいと言ってくれているので、これはうれしいことです。

あと、先生に対して認めてもらっているとか、相談に乗ってくれるとかいう意識が、高砂の子は高いかなと思っていたんですけども、そこがちょっと残念なので、先生方がお忙しいんだと思うんですけども、成績を上げるためにはそこがやっぱり根本かなと思います。子どもの場合は、勉強に向かうというのが気持ち安定していないと難しいですよ。ですから、そちらの方も一生懸命考えていただければと思います。多分これも学校によって格差がすごくあると思うのですが、そのところも御指導いただけたらありがたいと思います。

○事務局　この質問に係るところの調査結果も、今回は、やっぱり令和5年度に比べると下回ってきているんですね。今、委員がおっしゃられたように、先生方はひょっとしたら忙しくて子どもとゆったりと向かう時間がないのではないかと、先生方に少し時間的な余裕、心の余裕があって向き合うことができれば、子どもたちももっと勉強が好きになり、学力向上につながっていくのではないかと思います。全国と比べても、そういうところが低いということは、先生方の働き方も支援していかないといけないと見えています。

○委員　全国平均と比べて、高砂がどれくらい上か下かというのは数字で分かるんですけども、3%や2%がどれくらいなのかというのが分かりにくいですね。あと、この調査結果をどのように利用して、こんなことにつながったというところをこの調査結果と一緒に教えていただけたらなと思います。

○事務局　全国学力・学習状況調査とか入試問題でもそうなんですけど今は普通に文章を読むだけではなくて、その中にグラフなど資料が1つではなくて、複数の資料を

読み解いて、そこから何が分かるかというところを問われてきています。現在、高砂市には毎週5時間ですけれども、学校司書が入って、読みものだけではなくて、そういう資料も授業に合わせて用意できており、そういう授業の在り方は進みつつあるところです。

あとは、どうしても「探究」という言葉がキーワードとなってきていますので、そこは教育長が中心に進めて、STEAMライブラリー的な企業、たくさん身近にある企業をリストアップして、学校がもっとより身近に依頼できるようなところを、今まで使っているところとかもリストアップしたら、今まで知らなかった学校がこんなことできるんだということを共有できます。あと、中には新しい自由進度学習という取組をしている先生はいますが、なかなか結果として結びついていません。それが何とか結びつくようにしていかないといけないということで、これまでの授業スタイルでは駄目だなといろいろと考えているんですけど、じゃあ、全員が同じように新しいことにチャレンジできているかということではないです。

○委員 先ほどの司書、図書の教員にしたって、1人いたらいい、2人いたらいいじゃなく、各学校に常設、常勤でいれるような形が必要で、そういう意気込みがあって、それを積み重ねていって、何年か後には成果が出るような形にしていかないといけないと思います。先ほど話をした、学校の先生方に余裕がある時間をつくるためにはどうするかといたら、スタッフをいかに確保することで、先生が定員割れするようなことがあってはいけないし、病気で休まれた方の補充する方が常にあって、何人かが常に余裕のある形にしないと難しいですよ。先生の心に余裕がないと、子どもに懐を広げて、さあおいでと広い心で接することができません。いらいらしながら授業をしていて、それでいて、成果を上げなさいというのは、それは上意下達としておかしいでしょ。

○教育長 学校に火がつくような形で進めていかないといけないなというのがありますが、ただ、一律これでやりなさいというより、皆さんから御意見をいただいたような学校の特色を出していく、学校が頑張っているところをPRしていくみたいな形で進めていきたいと考えています。委員さんが言われたように、システムを見直していかないとイケませんし、それを中学校区単位でやっていかないとイケないなということを感じた次第です。

ただ、ゼロ問の子が10ページ、8ページ、6ページ、4ページにいるのが私は本当に嫌で、何とかしないとイケないなと思いました。最初から、僕はできないとか、したくないという意味合いがここにあるのかなという想像します。委員さん言われたような、先生がきちっと児童生徒一人一人を見詰めてみもらえるような体制もつくりながら、子どもたちの意欲を高めていくことを一番にしていかなないとイケないと思っています。

ただ、16ページと17ページ(25)番「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」、(15)番「人の役に立つ人間になりたい」、(25)番「地域や社会をよくするために何かしてみたい」で肯定的な回答率が高いので、こういう項目に重視していきながら高砂市の子どもたちを高めていけるようなプランニングができたかと今思っているところです。

何年後かに成果が出ていくような取組が要るかなと思います。
他にご質問等ございますか。承認してよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 報告事項 1 令和6年度全国学力・学習状況調査結果報告については了承いたします。

議 事 報告事項 2 高砂市教育委員会事業共催・後援について

○教育長 報告事項 2 高砂市教育委員会事業共催・後援について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 事業共催承認の9月分は、1番ひょうご・ヒューマンフェスティバル2024から3番令和6年度兵庫県中学校新人種目別大会まで、学校教育課がそれぞれの日に申請を受けまして、承認決定をしたものでございます。

事業後援承認は、1番高砂市秋季市民剣道大会から11番令和6年度兵庫県中学校新人種目別大会が上がってきており、1番から7番までが生涯学習課、8番から11番までが学校教育課がそれぞれの日に申請を受けまして、承認決定をしたものでございます。

○教育長 後援申請について、御意見、御質問はございますか。よろしいですか。

○委員 実施日が10月で申請が9月というのがあるんですけど、以前にいただいた承認に関する要綱では、2か月前までに後援申請を出すようにと書いてあるんですけども今は変わっているのですか。

○事務局 生涯学習課は変えていないです。

○教育長 4ページの8番と10番については、これはそのルールには外れているような気がするんです。遅かったんでしょうかね、申請日がどうなのか再度確認をさせていただきますでしょうか。

○事務局 遅れているんだと思います。

○教育長 遅れている場合は、それは認めるのですか。生涯学習課は認めているんですか。

○事務局 基本的に、前もって連絡がない場合は認めていないです。何らかのちゃんとした理由がない限り、事前に書類に不備があったとかいうことでない限りは認めていないです。

(休憩 午後6時45分)

(再開 午後6時51分)

○教育長 報告事項の後援申請につきましては、承認いただくということによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 報告事項 2 高砂市教育委員会事業共催・後援については了承いたします。

議 事 その他 1 10月行事予定について

○教育長 10月の行事予定について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 各小中学校において、オープンスクールや運動会の予定を入れてございます。定例の教育委員会は17日木曜日15時から南庁舎2階会議室2で開催いたします。

○教育長 御質問、御意見はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○教育長 その他 1 10月行事予定については了承いたします。

議 事 その他 2 学校内での車の事故について

○教育長 その他 2 学校内での車の事故について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 保小 schools で9月17日午前11時15分頃発生いたしました。グラウンドと体育館の間のアスファルトの通路に沿った側溝のグレーチングのところで発生いたしました。車両は救急車で、患者を収容した後、伊保小学校を出ようとした際に、グレーチング上に乗ったことにより、グレーチングが跳ね上がり、ガソリントankが破損しました。ガソリン漏れの処理と同時に、警察、環境政策課、教育総務課に連絡がされました。救急車に乗っていた患者さんは別の救急車で病院に運ばれまして、無事ということを確認しております。救急車も修理済みと確認しております。

○教育長 学校内での車の事故について、御質問、御意見はございますか。

○委員 アスファルトのところですか。

○事務局 アスファルト舗装のところは、車の通行は可能です。ただ、今回踏んでしまったのは車の通行を想定していないグレーチングでした。

昨年9月に宝殿中学校の緑化駐車場でグレーチングが跳ね上がり車を破損する事故があり、全校に自動車や人が通行する側溝の蓋が固定されているかという調査を行い、対応が必要なものを順次補修しているところです。今回の側溝は浮き上がりも何もなく車が通る想定もなかったところです。

○教育長 御質問、御意見はございますか。

